

安全・安心が持続可能な河川管理のあり方に係る論点整理

近年の集中豪雨による破堤等の災害発生を踏まえると、国民生活の「安全・安心」を実現・維持するためには、あるべき河川管理（河川が適正に維持されるための管理）の水準を踏まえ、日常管理はもとより危機管理の観点からも、効果的・効率的で的確な河川管理を行っていくことが不可欠。

一方、社会的なニーズが多様化する中で、河川環境の保全を図りつつ、住民やNPO等とのあるべき役割分担のもと、地域の要望等にも応えうる、目に見える安心感の高い河川管理の実施も重要。

○河川管理の水準はどこにおくべきか

- ・ 国民の安全・安心が持続する河川管理の実現のためには、河川の特長、周辺地域の特性を踏まえ、河川管理の水準をどのように定めるべきか。
- ・ あるべき河川管理の水準を踏まえ、限られた予算と管理体制という制約の中で、地域の特性に即した河川管理をどのように実現させるか。

○地域に根づいた河川管理はどうあるべきか

- ・ 地域が望む河川管理への期待・要望に対応するなど、地域に根づいた河川管理とはいかにあるべきか。
- ・ 国民の安心感や信頼感を醸成しうる河川管理を実現するためには、情報提供を含め、どのように河川管理の説明責任を果たしていくべきか。

○河川管理における危機管理はどうあるべきか

- ・ 危機事態発生時に、河川管理者として、河川の特長を踏まえ、被害の拡大防止、住民への情報提供、他機関との連携など、どのような危機管理体制が求められるか。
- ・ 大規模豪雨など計画規模を超える危機事態を想定した河川管理施設の構造、操作、機能確保などに、河川管理者はどう取り組むべきか。

○河道・施設管理と河川環境の保全との調和をどう考えるべきか

- ・ 被害を最小化するための河道・施設管理と、河川環境の保全との調和をどう考えるべきか。
- ・ 都市部を中心に河川利用への要望が高いが、河川利用と河川環境の保全との調和をどう考えるべきか。

○河川管理における住民や NPO 等との連携はどうあるべきか

- ・ 出水時の被害の最小化や日常の維持管理等において、河川管理者と住民や NPO 等との連携はいかにあるべきか。
- ・ 河川管理において、より積極的に住民や NPO 等との協働を進めていくためには、どのような取り組みが求められるか。

○河川管理責任について

- ・ 最低限確保すべき河川管理の水準が設定された場合、具体的にどのような河川管理を行えば管理責任を果たすことができるか。
- ・ 近年の裁判の事例からみた河川管理責任のあり方について。